

第28回許すな!憲法改悪
・市民運動全国交流集会

改憲と戦争への流れを止める!

2月7日(土) 13時半

ビューポートくれ「ホール」
参加費無料

日鉄呉跡地を防衛省が買い上げ、防衛拠点にしようとしています。全国にも弾薬庫の建設、ミサイル配備が進み、武器輸出や非核三原則撤廃にも踏み込もうとする高市政権によって大軍拠が加速しています。憲法の改悪を止めようと声を上げ続けている全国の許すな!憲法改悪・市民連絡会の皆さん、そして大軍拠を止めよう沖縄・西日本ネットワークの皆さんと広島の現地・呉で互い語り学びあいませんか。寒い時期ではありますが「戦争する国にさせない」という熱い想いを共有したいと願っています。どうぞお集まりください。



講演
布施 祐仁さん
フリージャーナリスト

2月7日(土) ビューポートくれ大ホール

13:30~16:00 公開集会

- ・主催者から 菱山南帆子さん(事務局長)
 - ・講演 布施祐仁さん(フリージャーナリスト)
 - ・報告 各地から 日鉄呉跡地問題を考える、他
- 主催:許すな!憲法改悪・市民連絡会

*全国交流集会は、公開集会後も、討論(セミクローズド)、フィールドワークなど翌8日午後まで行います。参加希望の方は主催者まで。連絡先ほか詳細は同封チラシ参照

会報127号 もくじ

- 1 第28回許すな!憲法改悪全国交流集会、総会のお知らせ 藤井純子
- 2 憲法25条の危機 石口俊一
- 3 のらフェミ通信 私たちの「ZINE」ができるまで 金川景子
- 4 呉を再び「軍港」にするってほんとにいいの?呉集会報告 岡西清隆
- 6 神奈川も、呉と共にたかかう 木元茂夫
- 7 大軍拠にNO! 戦争体制にストップ! 新田秀樹
- 8 STOP!上関中間貯蔵施設建設 鬨いは続く 三浦翠
- 9 私たちは、平和公園で学んだ平和を手離さない 辻隆広
- 10 11.3原爆ドームを平和のバナーで囲もう! 高校生1万人署名活動 4人
- 12 なぜ、ガザのジェノサイドに抗議をするのか? セーラーかんなこ
- 13 名前は人権 通称使用は解決じゃない 恩地いづみ
- 14 龍爪さんの手紙によせて 西浦紘子
- 15 活動報告 16 お知らせ・後記

東アジアの国々は大国に翻弄されてきた歴史から、苦難の外交努力を重ねている、と11.3憲法集会で猿田さんが語られた。大国米中のどちらかを選ぶのではなく、どことも等距離の関係を築こうとしている東アジアの人々に今こそ学びたい。

政府は「安全保障環境が厳しさを増し…」と脅威を煽り軍拠に走るが、その姿勢がむしろ近隣諸国との関係を悪化させている。また戦争で人が死ねば死ぬほど利益を得る「死の商人」をも呼ぶ。そんな社会と決別させたのが日本国憲法だ。改憲ストップ! 年の初めに改めて誓いたい。

被爆者や戦争を知る人がいなくなると、戦禍の記憶が薄れ、ますます「戦争する国」へ突き進むのでは?との心配はその通りだ。広島・長崎の高校生たちは「被爆の継承は若者の責任だ」と活発に活動し頼もしい。軍都廣島、軍港呉が、戦争はもうまつぱらという市民の強い願いで平和都市建設法や軍転法が作られ、白島小学校や広島市民病院、東洋パルプや広高校等に生まれ変わった歴史も伝えていきたい。

戦中・戦後、人々を静かに見守ってきた東京下町の「お化け煙突」4本は、平和、自由、平等、そして愛の象徴ともいわれているらしい。愛、これを憲法の中に探せば「公共の福祉に反しない」つまり思いやり、個々・国々の尊重だ。それを見失い、互いに非難の応酬や排外主義に陥れば軍拠を進ませてしまう。

海兵隊員として、ベトナム戦争で過酷な体験をしたアレン・ネルソンさんは、戦争を知らない日本の子どもたちに「戦争がないことが根付いて80年、9条の存在こそが素晴らしい」と熱く語った。本当の戦争を知っているから、子どもたちを戦場に行かせるわけにはいかないのだ。

3月22日、第九条の会ヒロシマ34周年記念集会で、アレンさんの下記ドキュメンタリー映画を上映する。戦争を知らず、「国を守るために軍事力が必要だ」という人、「かっこいい」と憧れる若者がいるとすれば、是非とも観て戦争の真実を知ってほしい。改憲と戦争の流れを止めるために。(26.1.3 藤井純子)

第九条の会ヒロシマ総会2026 & 34周年記念集会

ドキュメンタリー映画上映

アレン・ネルソン

9条を抱きしめて

～元海兵隊員が語る戦争～



2026年 3月 22日(日) 広島市市民交流プラザ5F

14時～ 映画上映 16時～ 総会行事
(詳細は同封のチラシをご覧ください)

石口俊一（広島県9条の会ネットワーク事務局長）

画期的な最高裁判決

昨年6月27日に最高裁第三小法廷は、第二次安倍政権の2013年～2015年にかけて、生活扶助基準が平均6.5%、最大10%引き下げられ総額670億円が削減されたことに対し全国29地裁で1000人を超える市民が憲法25条違反だと提訴した裁判（いのちのとりで裁判）で、生活扶助基準の引き下げの最大の理由とされた「デフレ調整」は専門的知見との整合性を欠くものであり厚生労働大臣の判断の過程及び手続きに過誤、欠落があるとして引き下げが違法であると断じる画期的な判決を出しました。

生活保護、それを巡る裁判

生活保護法は、憲法25条の生存権保障を受けて制定された法律で、生活保護基準は最低賃金制度やその他の社会保障の水準をどの程度にするかに大きく関わっていますから、生活保護を受けている市民だけでなく大多数の働く人々にとっても他人事ではありません。そのことを人々が知る契機になったのが1960年10月19日「朝日訴訟（原告が朝日茂さん）」の東京地裁勝訴判決です。

国は、この判決を受けて余りに低劣な生活保護基準の増額改定をしながら、一方で東京高裁に控訴。控訴審が逆転敗訴の判決を出したので朝日さんは上告をしたが亡くなり、1967年5月に最高裁は訴訟の引き継ぎを認めず、判決の傍論で朝日さんの主張を認めないような判示（厚労大臣は生活保護法の保護基準の改定について極めて広範な裁量がある）をしました。この58年余り前の判決や1986年7月の堀木訴訟最高裁判決（詳細は略）が、これまでの多くの憲法25条違反を問う生活保護や社会保障の裁判の大きな障壁となっていました。しかし、やっと先の画期的な最高裁判決を勝ち取ったのです。

トップジェノサイドアクション参加の石口さん↓



国のトンデモ逆転対応

ところが、国は、先の最高裁判決を受けて、誤った生活保護切り下げを謝罪して引き下げの補償をするのではなく、最高裁判決を受けての対応委員会を設置して、違法な引き下げ処分の取消しとは別の方策の検討を始め、その委員会には当事者の原告らの参加を拒みました。そして、昨年11月に出た委員会報告書では、(1)最高裁判決が違法と認めた「デフレ調整」（物価が下落しているから減額は適正だというインチキ）による引き下げ分のうち、改めて調整をし直した結果、最初の物価下落率4.78%は間違いだが2.49%は理由があるからその分を当時の受給者に支払う、つまり引き下げ分の一部だけ補償する。ただし、裁判を提起した原告には、また裁判になりかねないから「特別給付金」を加えて全額補償する、(2)引き下げの別の理由の「ゆがみ調整」は最高裁が違法とは言っていないからその分は補償しないというものです。

この裁判の原告は全国で1000人余りですが、生活扶助基準の引き下げは全国一律に当時の受給者全員に対して行われましたから、「デフレ調整」分の補償は、原告と原告以外の者で差がつくことになります。私も弁護団の一員ですが、原告の皆さんには自分一人のためにだけ裁判を起こしたのではなく、裁判を起こせない皆の為でしたし、全国一律の引き下げ処分が取り消された以上は全員が原告と同様の補償が受けられるはずです。さらに、今回の委員会報告が言う2.49%の引き下げは、根拠や理由は何かを尋ねても答えはないままです。

また、「ゆがみ調整」も含めた引き下げ処分の全体が違法として取り消された訳ですから、最高裁判決後のたった数か月間の委員会の議論だけで、また「切り下げ」補償しかしないというのは、2014年の提訴から11年間余の裁判活動をしてきた全国各地の原告の多大な労力を全く無視したものです。

終わりに

今、全国から姑息な国の「補償値切り」に対する抗議の声が上がっていますので、皆さんの応援を是非！ ところで、朝日茂さんのお墓とその側に憲法25条が刻まれた石柱と裁判の経過を刻んだ墓誌の石柱がある岡山県津市西寺町の本行寺は私の両親の菩提寺で縁を感じます。

血痰と 動悸はげしき 日々なれど
人間裁判に 生命（いのち）をかくる
(裁判中の朝日茂さんの短歌)

制作秘話「この社会で生きるために隠れているあなたにー地方でこっそりフェミニストやってます」

それは「なんだか面白そう」から始まった

ある日、「『夢のフェミニズム ZINE プロジェクト』ってのがあるんやけど、応募せん？」メンバーの一言から、私たちの ZINE（自主制作の小冊子）づくりは動き出しました。このプロジェクトは、上野千鶴子さんが理事長を務める認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）が、フェミニズムの思想や実践を表現する ZINE の出版を応援する企画で、優秀な企画には助成金が支給されるというものでした。普段からジェンダーについて考えている私たちにとって、まさにうってつけの企画。とはいえ、本当に自分たちにできるのかという不安もありました。それでも、「なんだか面白そうだし、きっと何とかなる」と思い、思い切って応募することにしました。

キックオフミーティングでは、まず ZINE のコンセプトを考えることから始めました。県外での生活経験をもつメンバーが多い私たちは、広島で暮らすなかで、どこか息苦しさを感じていました。それは、地方特有の空気感のせいなのか、いまだ色濃く残る家父長制の呪いのせいなのかー。「これっておかしくない？」と声を上げることもままならず、ひっそりと身を潜めるように暮らしてきたのです。けれど、こうした経験をしている人は、広島に限らず、全国の地方都市にもたくさんいるのではないか。そんな人たちに、「ひとりじゃないよ」というメッセージを届けたい。そうした思いをコンセプトに据え、メンバーそれぞれが書きたいことを出し合い、企画書を作成しました。

「なんだか面白そう」から始まった私たちの ZINE 企画書が、応募総数 41 件の中から 4 件に選ばれたと聞いたときは、驚くと同時に、「えらいことになったで。ほんまにできるなんかいな（※私は関西人です）」と、思わず冷や汗をかいたのも、今となっては良い思い出です。

いざフェミ ZINE 合宿へ！

ZINE を書くにあたり、時間と場所を確保し、腰を据えて集中したい——そんなメンバーの声から、私たちは ZINE 制作合宿を行うことにしました。向かった先は、島根県の共存同榮ハウス。美味しいものを食べ、温泉に浸かり……と、つい本来の目的を忘れそうになりながらも、ZINE の企画をじっくりと煮詰めていきました。

夜遅くまで語り合うなかで、心の距離はぐっと縮まり、忘れない熱い夜となりました。「なぜこの ZINE を作りたいのか」「誰に届けたいのか」「読んだ人にどうなってほしいのか」ー。メンバーそれぞれの真剣な想いに、自然と涙があふれる場面もありました。こうして、私たちの想いがぎゅっと詰まった ZINE の骨組みが、少しづつ形になっていったのです。

金川 景子（ジェンダーを考える広島県民有志）

合宿後は、各自が記事を書き進めました。それと並行して、ZINE のデザインも少しづつ形になっていきます。完成したデザインを目にしたとき、「これはイケる！」と確信しました。そして、刷り上がった ZINE を初めて手に取った瞬間の感動は、今でも忘れられません。

これが私たちの ZINE です！

私たちはこれまで、「面倒くさい」「変な人」と思われることを恐れ、こっそりとフェミニストをやってきました。だからこそ、同じように孤独を感じている誰かに、この ZINE を届けたいと思っています。

本誌には、読む人をエンパワーするコンテンツが詰まっています。コラムには、メンバーそれぞれの経験が綴られており、辛い出来事を語る覚悟が行間から伝わってきます。それでいて、読み終えたあとには、そっと抱きしめられるような優しさが残ります。また、セクハラリポートには、これまでに辛い体験をしてきた女性たちの声が数多く収められています。読むのが苦しくなる場面もありますが、丁寧な考察が、確かな救いを差し出してくれます。そのほかにも、地方に根強く残る古い慣習やジェンダーバイアスについての話題、自分を守るための具体的な方法、エンパワーされる曲のプレイリスト、政策アンケートの取り組みなど……

とにかく盛りだくさんの内容です。きっと読んだ人は、怒り、涙し、ときに立ち止まりながらも、確かな連帯を感じてくれるはずです。これまで、こっそりと隠れるように生きてきた、すべてのフェミニストに、この ZINE を捧げます。



※ジェンダーを考えるひろしま県民有志が制作した ZINE『この社会で生きるために隠れているあなたにー地方でこっそりフェミニストやってます』は、「Social Book Cafe ハチドリ舎」および同店のホームページ（上記 QR コード）にて購入できます。そのほかの取り扱い書店については、県民有志の Instagram などでご確認ください。

—呉の未来を考える—呉を再び「軍港」にするって、ほんとにいいの？

「多機能な複合防衛拠点」って何？

岡西清隆（日鉄呉跡地問題を考える会）



大分の池田年宏さん



コーラスさん



佐伯真弓さんと田中美穂さんの司会



現地呉からは、宮岡照彦さん



趣旨説明 是恒真澄さん



熊本の海北由希子さん

12月20日、「ヒロシマ総がかり行動実行委員会」、「総がかり行動呉地域協議会」、「日鉄呉跡地問題を考える会」、「戦争止めよう！沖縄・西日本ネットワーク」の4者の共催で、「呉を再び『軍港』にするって、ほんとにいいの—呉の未来を考える—」を開催し、皆さんのご協力により成功裏に終えることができました。集会は呉市警固屋体育館で開催、その後体育館から日鉄呉（旧日新製鋼）跡地を経由して潜水艦基地までの1.8km、ピースウォークを行いました。県内外から約400人集会参加者でした。

進行 集会は佐伯真弓さんと田中美穂さんの司会。

開会挨拶

是恒真澄さんが冒頭で「全国で進む戦争準備に抗して、個別のたたかいではなく、つながりあう新たなスタートとしよう」と集会の趣旨説明を行いました。

有田芳生さんが呼びかけ人の一人として「戦争への道を阻止するため、南西シフトから始まった列島軍事化に対抗する市民運動の全国化」を提言しました。

報告

現地呉からは、宮岡照彦さんが空襲体験者の声を紹介。横須賀の木元茂夫さんは、弾薬庫や艦艇桟橋、司令部が整備中という現状を報告。

熊本の海北由希子さんが長距離ミサイル配備に抗する地元商店街の決起集会など反対運動の高まりについて報告。

集会アピール採択

「呉の未来を、平和のまちとして守り抜くために、今こそ声を上げよう」と参加者で確認し合いました。

閉会挨拶

石口俊一弁護士が「参加者からの発信」「地域でつながる学習会の積み上げ」「弾薬庫計画に反対する沖西ネットの全国化」という3つの行動提起を行いました。

最後に全員で「わたしら平和の方がいい」「軍事拠点はNO！NO！NO！」「非核3原則守ろうね」のボードを掲げるアピール行動を行いました。

天も応援してくれたのか、明け方まで降った雨も上がり、晴れ間も出て歩くと汗ばむほどのポカポカ陽気でした。

ピースウォークで、参加者は日鉄呉跡地の解体作業現場を視察しながらシュプレヒコールを行い、約45分間歩いて自衛隊の艦船や潜水艦の見えるアレイからすこじまで散会しました。全国で進む戦争準備に抗して、個別のたたかいではなく、つながりあう新たなスタートとする集会になったのではないかと思います。

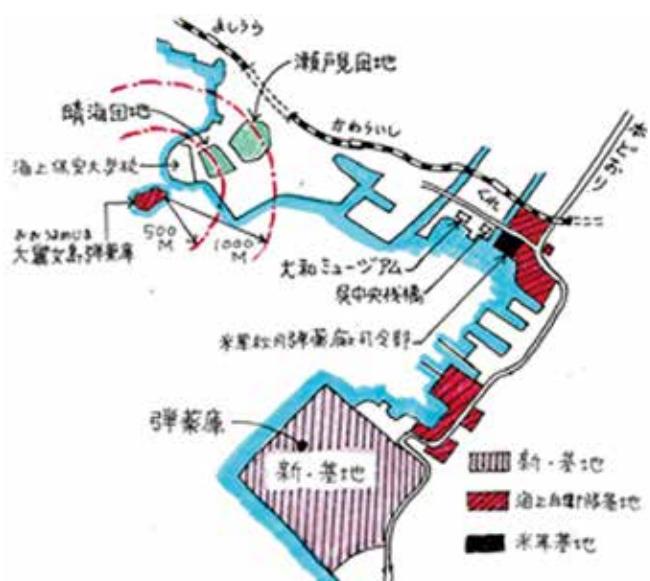


集会アピール 濱中康子さん



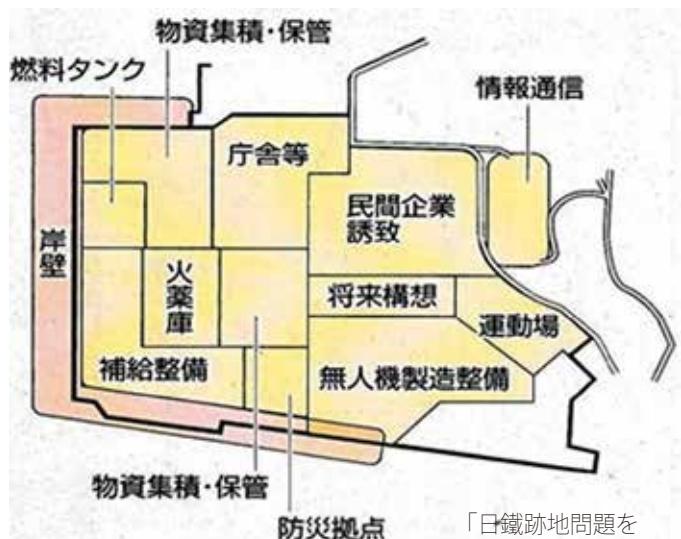
「わたしら平和の方がいい」「軍事拠点はNO！NO！NO！」「非核3原則守ろうね」

新基地が整備されると呉湾が日米の軍事拠点に



防衛省は日鉄呉跡地への「弾薬庫」の整備を明らかにする一方、その面積を必要最小限に抑え、呉湾内にある大麗女島の既存の海上自衛隊弾薬庫を最大限活用することを表明した。大麗女島から対岸の海上保安大学校までの距離は約300mで背後には住宅団地が広がっている。

防衛省が示したゾーニング案 (施設配置) 案 (2025年3月31日)



- ★防衛装備（武器）の研究施設
- ★無人機の製造・整備
- ★火薬庫（地上覆土式）保安距離は敷地内に収まる？
- ★情報通信施設（部隊間を衛星通信でつなぐ）



ピースウォークの向こうに広大な130haの日鉄呉跡地が広がっている

12.20 吳集会 神奈川にもミサイル弾薬庫… 共にたたかいましょう！

木元茂夫 (すべての軍事基地にNO！ファイト神奈川)



12.20 吳集会 神奈川の報告をする木元茂夫さん

木元です。横須賀に近い横浜南部の磯子という街から来ました。呉と似たところがあります。ジャパンマリンユナイテッド株式会社の横浜事業所磯子工場がすぐ近くにあります。いま、護衛艦「いずも」が空母への改修工事を行っています。2026年度防衛予算には改修費285億円が計上されました。「いずも」も「かが」も、イージス艦「まや」も「はぐろ」も、この造船所で建造されました。11月には小型の哨戒艦「さくら」と「たしばな」の進水式が行われました。近くにある「富岡総合公園」から、そのようすを見ていました。ここはかつての「横浜海軍航空隊」の跡地、水上飛行艇の基地でした。戦後米軍に接収されて、「富岡倉庫地区」となり、米軍物資の保管をしていました。現在はすべての土地が返還されました。

磯子区から電車で20分ほどの横須賀には、海上自衛隊の使用している比与宇弾薬庫と米海軍の使用している浦郷弾薬庫があります。正確な数量は不明ですが、イージス艦に搭載するトマホーク巡航ミサイルが数百発保管されています。広島県の広弾薬庫を経由して、あるいは米国から貨物弾薬補給艦によって弾薬が補給されています。いまは、弾薬庫から運び出したミサイルを台船に乗せて、沖合に停泊したイージス艦に、クレーンで一発ずつ吊り上げて、垂直発射装置(VLS)に装填しています。波が高い場合はこの作業はできません。そこで、浦郷弾薬庫に桟橋を作りイージス艦を接岸して、ミサイルを積込む方法に変更しようとしています。



比与宇弾薬庫も、4棟追加建

弾薬庫から海面に伸びる桟橋がようやく完成し、さらにこれに接続する桟橋をつくろうとしています。2025年5月に約98億円で契約し、工期は2028年までです。完成した時には、浦郷弾薬庫の日米共同使用が進められるのではと、横須賀のみなさんは警戒しています。

海上自衛隊の比与宇弾薬庫も、4棟が追加建設され2022年に完成、合計14棟になりました。古い弾薬庫からは潜水艦に搭載する大型の魚雷が出し入れされています。魚雷の燃料は不安定で衝撃をあたえると危険だと防衛省が認めています。

新しい弾薬庫には、弾道ミサイル迎撃用のSM-3ブロックIII Aが保管予定される予定と報道されていましたが、防衛省に確認すると2023年～2025年に発注したブロックIII Aは、いずれも納品されていないとのことです。

一方で、イージス艦「きりしま」をトマホークが搭載できるよう改修工事を年度内に実施すると防衛省は明らかにしました。イージス艦が弾道ミサイルを監視している時に、イージス艦の周囲を警戒する役割を担う、高性能の護衛艦「てるづき」に2027年度に12式地対艦ミサイルの能力向上型を搭載すると8月に発表しています。トマホークと12式、二つの長射程ミサイルが横須賀の弾薬庫に保管されようとしています。呉にも大麗女島に弾薬庫1棟を追加建設すると防衛省は言い出しました。

横須賀では8月からトマホーク配備反対の署名活動に取組み、自筆の署名とネットの署名合わせて約3万942筆を集め、「トマホークを海上自衛隊に配備しないで欲しい」という請願を横須賀市議会に提出しました。呉のみなさんにもご協力いただきました。ありがとうございました。

呉の日本製鉄跡地に「複合防衛拠点」をつくろうとしていますが、大量の軍需物資を積むことは呉市の危険性を高めます。広島、呉のみなさん、これからも力を合わせてがんばりましょう。



巨大な空母の甲板が見える

大軍拡に NO、戦争体制にストップを！

新田秀樹（ピースリンク広島・呉・岩国）

12月26日、総額9兆353億円の防衛予算案が閣議決定された。1月23日召集予定の通常国会で予算案審議が始まるが、安倍、岸田、そして高市政権と続き、戦争法成立、安保三文書改定、そして再見直しへと続く大軍拡の勢いは急加速しているが、本質的な審議は行われていない。補正を含めた25年度防衛費は約11兆円、GNP2%になり、市民生活に必要な予算は抑える一方、戦争のための予算増額、そして国債発行、かつて来た道であり、こんな暴挙は許されない！



県内では、呉市に「多機能な複合的防衛拠点」整備のためとして、閉鎖された日鉄跡地を購入のための調査費に6億円、衛星設備に112億円を計上している。昨年3月に発足した自衛隊統合作戦司令部の指揮下、陸海空自衛隊の統合部隊である自衛隊海上輸送群が呉基地を司令部に発足したが、さらに空自の「宇宙航空軍」の基地としても運用されるのか。いずれにせよ、呉基地の軍事拠点化は進むばかりである。

自衛隊海上輸送群には巨大な中型輸送艦「ようこう」（基準排水量3500トン、全長120メートル）とやや小さい輸送艦「にほんばれ」（2400トン、80メートル）が配備され、今後小型の上陸舟艇など阪神基地隊とも合わせて10隻の艦船を持つことになる。既存の「おおすみ」型大型揚陸艦とともに自衛隊南西シフトにリンクした輸送拠点ができる。

日鉄跡地を巡っては、昨年3月に示された配置計画案では、兵器の整備拠点、無人機製造や運動施設、弾薬庫などが明記されているが具体的なことは示されていない。呉では「日鉄呉跡地問題を考える会」が一昨年発足し、活動を続けているが大きな世論形成には至っておらず、防衛拠点化推進の新原市長の再選を止められなかった。言うまでもなく80年前まで呉は帝国海軍の一大拠点であり、戦艦「大和」をはじめとした軍艦を多数造って栄えた街だった。戦後は「平和港湾都市」として生まれ変わろうと「旧軍港市転換法」を市民の力で勝ち取り、発展してきた。しかし日米安保体制の中、海上自衛隊も大き

く変質して来ている。米英軍戦闘機なども運用できる事実上の空母「かが」が配備され、海上自衛隊呉基地は大型艦船が並ぶ複合基地である。

一方で広島の西には米軍岩国基地の存在がある。昨年9月には、原子力空母「ジョージ・ワシントン」が滑走路を空母の甲板に見立てて離発着する訓練、いわゆる「タッチ・アンド・ゴー」を繰り返すFCLPが移駐から7年、初めて行われた。本格的にベースグラウンドである岩国基地の利用の常態化を考えているのかもしれない。そして、LCAC（上陸舟艇）の相互運用、護衛艦や潜水艦への弾薬積み込み、空自戦闘機の飛来など、この間日米合同訓練などで自衛隊の利用が目立つ。

また9月には、米陸軍が運用する最新ミサイル発射装置「タイフォン」の運用訓練が岩国基地で行われた。「タイフォン」はトマホークミサイルなどの中距離ミサイルを運用できる装置で、初めて日本国内に持ち込まれた。「一時的運用」と言いつつ、恒常的運用の第一歩だと考えているのかもしれない。「タイフォン」で運用するトマホークミサイルは通常型でも1600キロの射程、岩国に配備すれば、中国の北京まで届く距離である。着実に岩国基地の強化が進んでいる。

広島湾の東西に位置する岩国と呉、そして海田には中国地方の陸自を統括する第13旅団司令部がある。かつてアジア侵略拠点であった軍都廣島を復活させてはならない。中国監視のための護衛艦「すずつき」の領海侵犯、通告を受けながら監視に当たったレーダー照射問題などは、場合によれば不測の事態も起こしかねない。そして、「台湾問題は存立危機事態」と言い、与党政策合意で原潜も視野に入れ、殺人兵器の輸出も解禁するという。

予定では今年、敵地攻撃能力を持つ長射程ミサイルの配備が始まる。呉に司令部を置く第4護衛隊群所属のイージス艦「ちょうかい」は1年にわたり、先制攻撃ミサイル「トマホーク」の運用訓練を米国で行っている。全国で弾薬庫の増設や基地強化が進む中、「戦争止めよう！沖縄・西日本ネットワーク」の活動も本格化している。全国が連携し、「知り、つながり、止める」を実践しよう。



12月14日大分敷戸集会に石口さんと新田さんが参加

三浦翠 (原発いらん! 山口ネットワーク)

2023年8月、突然明らかになった中国電力と関西電力が共同で建設するというこの計画、実はその5年前から秘密裏に検討されていたことが明らかになっている。しかし何も知らされていなかった町民、県民からは驚きと怒りの声が上がった。「なぜ関西電力の核のゴミを上関に持ってくるのか!」と。

周辺市町の上関原発計画に反対する議員連盟はすぐに周辺市町の首長と上関町長に計画をやめるよう申し入れをしたが、上関町長・西哲夫氏は町議会の採決さえ取らず、すぐに中電に現地の調査を許可した。町長の言い分は「原発の交付金が入らなくなったら上関町は財政的に破綻する。新たな交付金が必要だ」というもの。反対派が国から地方交付税が入るので破綻はありえないと言っても、町長は聞く耳を持たず、今も同じことを言い続けている。

祝島在住の若い町議、秋山氏は「これまでに上関町にはすでに100億円以上の原発関連交付金が入っているのに、人口減少率は中国地方で一番。街の人口減少は金の問題ではない」と議会で何度も主張したが、町長と推進派の議員は結託して質問に答えようともしないという。ある町民は「町長も推進派の議員も中電に買収されるとんよ」という。

翌2024年4月には中電は現地の自社所有地内で11本のボーリング調査を始め、11月に完了。その結果をまとめた書類を2025年8月29日に中電の大瀬戸執行役員ら3名が上関町役場をおとずれ西町長に手渡した。中電が手渡したのは「『上関地点における使用済み燃料中間貯蔵施設』立地可能性報告書」という69ページの書類。よく見ると「核」の字が抜いてある。なぜそんなことをするのか、と言えば、「中電とはそういう会社だ」というしかないが、住民を見下している結果だと思う。2010年、田ノ浦の埋め立てをめぐって祝島の漁船が中電側の船を止めようとした時、彼らは「あなた方どうせ第一次産業ではやっていけないでしょう」と言って祝島の人達を激怒させたが、その体質は全く変わっていない。この時の祝島のおばちゃんたちの「あんたら札束でも食ってろ!」は名言。

この書類の内容を見ると中国電力が上関原発建設計画のために1994年12月以降に現地で実施した調査結果(気象、地盤、地震等)を活用したとある。つまり地盤や地震については「上関原子力発電所設置許可申請書」の調査結果を流用したということだ。

中電は2009年10月に「原子炉設置許可申請書」を国に提出。国は地震学者からなる「耐震意見聴取会」を設置。2010年3月第1回審議会を開始。第3回の「耐震意見聴取会」の審議が終了した時点で、各委員が「この資料ではこれ以上審議できない」で一致、審議会は休会となった。

当時の原子力保安院も「データ不足、判断する材料が不十分、耐震の重要性についての認識が甘い」と中電を批判。中電に新たな調査を指示した。当時電力会社とほぼ一体化していた保安院がここまで言うのはよほどのことだ。すぐ後に福島の事故があったが、中電は何の調査もしていない。

今回の調査結果について中電は報道陣から「専門家の審査を受けるのか」と聞かれてそれを強く否定している。「自分で調査して何の審査もなく適地であるというのはおかしい」と云う声は私の住む周南市の市議からも上がっている。

中電は周辺自治体にも調査結果を知らせたと発表したが、実際に配られたのは紙一枚の報道への通知と同じものだったと報道されている。69ページの報告書を実際に受け取ったのは上関町長だけだった。私たちは中電のホームページから入手した。原子炉設置許可申請書で駄目だと保安院から言われた調査結果を中間貯蔵施設建設計画に流用し、勝手に適地であると決めるなど決して許さない。

周辺自治体の田布施町では2025年2月の町議選で中間貯蔵反対と推進の議員数が6対6となり、中間貯蔵反対を議決した。田布施町と言えば保守的な山口県の中でも最も自民党が強い町だ。岸、佐藤元首相の出身地であり、現在も自民党の国会議員が2人在籍している。そんな町で住民の怒りが爆発、反対派が得票数の上位を独占した。

2025年12月7日には田布施町に隣接する人口3万の柳井市で市議選があり、9対7で反対派が多数となった。議員の平均年齢も70代から50代へと一気に若返った。

村岡現山口県知事は中間貯蔵については周辺自治体の同意も大事と言っている。2026年2月には知事選挙があり現在3人が立候補している。さらに同時期、上関町議選がある。田布施町でも柳井市でも街宣、看板立て、ビラ各戸配布とみんな死に物狂いで頑張った。闘いはまだまだ続く。



上関中間貯蔵、周辺議会で初

田布施町、反対決議案可決

山口新聞 3月22日
(渡田さん提供)

私たち、平和公園で学んだ平和を手離さない

—広島・パールハーバーの姉妹公園協定撤回を求める署名に協力を！—

辻隆広（広島・パールハーバーの協定撤回を求める会世話人代表）



第2回街頭署名活動 元安橋（写真：中奥）

広島市、姉妹公園協定締結を強行

広島市は2023年6月22日、市民にとっては唐突に、広島平和記念公園と米ハワイ州のパールハーバー「国立記念公園」との姉妹公園協定を29日に結ぶと発表した。協定内容には、両公園の戦争関係の資料などを活用した企画展の開催などがあり、若者の教育に力を入れることも明記されている。

経過は、アメリカの駐大阪・神戸総領事が2023年4月、両公園とも太平洋戦争の当事者間の相互理解と平和の推進を目的にしているとして「G7広島サミットを契機に協定を締結したい」と広島市に打診。広島市は「戦争の始まりと終焉（しゅうえん）の地に関する両公園の提携は、過去の悲しみを耐えて憎しみを乗り越え、未来志向で平和と和解の架け橋の役割を果たす」として受け入れた。協定締結に対し、元市長の平岡敬さんは「ヒロシマの平和思想をつぶすに等しい」と批判した（2023年6月26日中国）。

パールハーバー「国立記念公園」

という「公園」は存在しなかった

パールハーバー「国立記念公園」には、日米開戦の発端となった真珠湾攻撃の犠牲者を追悼する碑（アリゾナ記念館）があると紹介された。協定文書に英語では「Pearl Harbor National Memorial」とある。国立公園局の所管ではあるが「park」ではない。今回広島市はあえて「公園」と“超訳”し、「広島平和記念公園」と似せた。しかし、よく知られているようにアリゾナ記念館の教訓は「油断するな！常に戦争に備えよ！」である。また、そこは東アジア地域をにらむアメリカ・インド太平洋軍の巨大な軍事基地である。しかし、広島市は「（協定を結んだ「公園」は）軍事施設ではない」と市民をミスリードする。「台湾有事」で世論を煽るとき、ハワイは戦争の最前線ではないのか。

広島平和記念公園から原爆を問う声が奪われる

以上の姉妹公園協定をめぐり、市民局長が市議会で「原爆投下に関わる米国の責任の議論を現時点では棚上げする」と答弁した。当市が、協定締結にあたって、G7広島

サミットの（核抑止戦略を認めた）「『広島ビジョン』の実現に向けた第一歩」と説明したことと合わせると、残念ながら、広島市が、広島市民の歴史的遺産である平和記念公園から核兵器の非人道性・原爆投下の責任を問う声を奪おうとしていると感じられた。協定の実態は、2024年から始まった若者の交流であるが、協定以前からあるホノルルとの市民交流との違いが見えない。一方、協定の危険な効果はヒロシマの声をつぶすこと、米国政府による文化戦略であろう。

2025年8月5日、広島原爆投下80年について、米国務省報道官は記者会見で「広島の和解の精神はアメリカとの同盟を強くしてきた。80年間、アメリカと日本は肩を並べ、太平洋地域の平和と繁栄を守ってきた。」と語った。いよいよ「広島」の「精神」は日米同盟のかなめとなり、核軍事体制を支えるものになるのだろうか？

平岡敬さんはじめ多彩な呼びかけ人の支援

協定撤回署名を広げよう

私たちは、協定締結前に広島市に申し入れを行い、以来何度も交渉をしてきた。平和公園ガイド5人が自費でパールハーバーを視察、そこでは核ミサイルの発展を誇る博物館が2021年に建設されていることがわかったが、当市は触れようとしない。私たちは当市が語らない実態を広島の市民に広く伝えてきた（パネル展など）。また、問題の核心を共有するための市民学習会はすでに7回を数える。

私たちは2025年を重要な年と位置付け、他の平和運動や市民との連携を進め、10月には「広島・パールハーバーの協定撤回を求める会」を立ち上げ、協定撤回の声を大きくし署名に取り組んでいる（署名用紙の呼びかけ人一覧参照）。2026年、広島市議会に請願署名を提出し、広島市から核兵器廃絶を強く求める声をあげたい。署名は市長向け・市議会向けの2カ所に提出する。また毎月29日11時、元安橋で行う街頭署名に協力をお願いしたい。

（同封のチラシと署名用紙に連絡先あり）



左奥（海上）：アリゾナ記念館
手前：戦艦ミズーリ記念館

24年1月視察
(写真：山根)



平和のバナーで原爆ドームを囲み歌を歌いました。
スピーチは1万人署名の高校生4人と2人 ~p13



◆ 坂本倅南 (山陽女学園2年)

こんにちは。今日は、平和への想いを原爆ドームの前で皆さんと共有できることを、とても嬉しく思います。

私が思う平和な世界とは、誰もが不安を感じることなく、安心して笑顔で生きていく世界です。けれど現実の世界では、今もなお核兵器が存在し、人々を脅かしています。「核を持つことで戦争を防ぐ」という核抑止の考え方と、「核を無くすことで平和を築く」という核廃絶の考え方方が対立しているのが現状です。たとえ核抑止によって戦争が起きなかつたとしても、互いに恐れ疑いながら生きる世界を、私は本当の平和とは呼べません。本当の平和とは誰もが安心して暮らし信頼し合える世界のこと。そしてそのために、私たちは「核兵器を必要としない未来」を信じ続けることが大切だと思って活動をしています。

そんな世界をつくるなんて無理だ、理想にすぎない。そう言う人もいるかもしれません。けれど、私には大切にしている言葉があります。「人の想いは永遠」です。

被爆者の高齢化が進む今、直接お話を聞ける機会は年々減っています。だからこそ、これからを生きる私たちが、その想いを受けとめ語り継いでいかなければなりません。「二度と同じ悲しみを繰り返さない」その願いを、私たちが受け取り、そして次の世代へと繋いでいく。それが、平和への道を絶やさないことにつながると信じています。

私が参加している高校生1万人署名活動では、街頭に立ち、署名を呼びかけています。短い時間の中でも、多

くの方が足を止め署名をしてくださいます。2時間で500人が協力してくださったこともあります。その一枚一枚には「平和を願う想い」が確かに込められています。

集まった署名は毎年8月、平和大使がスイス・ジュネーブの国連欧州本部に届け、大切に保管されています。広島で生まれたその想いが、世界へと確かに届いているのです。

また被団協の方々がノーベル平和賞を受賞されたことも記憶に新しいと思います。戦後80年が経とうとする今でも、被爆者の声や平和を願う活動が世界に影響を与え続けていることは、大きな希望です。その歩みの中に、私たち高校生の小さな活動も確かにあります。そう思うと、どんなに小さな行動にも意味があると信じられます。

私たちのスローガンは「ビリヨクだけどムリヨクじゃない」。一人ひとりの力は小さくても集まれば必ず大きな力になる。ここに集まっている皆さん姿を見ても感じます。平和を想う心が、こうしてつながり、共に広がっていく。それこそが核のない世界へと続く道だと思います。

私たちが今すぐに核をなくすことはできません。けれど、核兵器を「必要だ」とする考えを許さないために、声を上げ続けることはできます。その声が重なり合えば、やがて世界を動かす大きな力になるはずです。平和は誰かに委ねるものではなく、私たち一人ひとりが共につくり出していくものです。これからも、皆さんと一緒に、平和な未来を信じ歩み続けていきたいと思います。いつの日か世界中の人々が心から笑い合える日が来ることを心から願っています。

◆ 矢澤輝一 (広島大学附属高校1年)

今現在、私たちが生きている世界は平和と言えるでしょうか? 世界ではウクライナ戦争が3年半を過ぎても続いており死者が数十万人を越え、子どもたちの生きる希望や未来が失われています。その他にも、民族や宗教、領土や資源の問題から、戦争や紛争など争いが絶えず、今この瞬間も世界のどこかで尊い命が奪われています。

今から80年前の1945年8月6日午前8時15分、一発の原子爆弾によって広島の街は壊滅しました。当時、店が立ち並んで繁華街があり、多くの人が暮らしていた広島の中心部に原子爆弾が投下され、一瞬にして数万人の命が犠牲になりました。爪の先からただれた皮膚が垂れ下がり、目や腸が飛び出し、服もボロボロとなつた人たちであふれ、まるで生き地獄のようでした、と被爆者

は語ります。原爆によって家族や友人などの大切な人を奪われ、住む場所や食糧もなく、苦しく貧しい生活を強いられました。また、被爆者は強烈な熱線、爆風、放射線の影響を受け、現在に至るまで身体的、又、精神的に苦しみ続けてきました。しかし、被爆者は生きる希望や強い意志を持ち続け、当時、「75年は草木も生えぬ」と言われ、この原爆ドームから分かるように、無惨な姿だった広島から80年が経った現在、美しい緑あふれる広島に復興しました。もう二度とこのような経験を誰にもさせないために、被爆者は日本原水爆被害者団体協議会、日本被団協をはじめとする全国各地に被爆者団体協議会を結成し、被爆者は肉体的苦痛や自らの辛い被爆体験の記憶と共に、核兵器の危険性や非人道性を世界に何度も訴え続けました。その結果、核兵器の使用は道徳的に容認できないという強力な国

際規範を形成し、世界に核のタブーの概念を確立させました。この功績が讃えられ、昨年、日本被団協はノーベル平和賞を受賞しました。私は、世界で核兵器の脅威が高まっていることの表れでもある、と考えます。ウクライナ侵攻を続けるロシアが核兵器の使用を示唆するなど、核抑止論が正当化され、国際社会の緊張が高まっているからです。核兵器の上に成り立つ平和など存在するわけではなく核兵器が国家間の緊張状態を緩和する保証は全くありません。もしも核兵器が誤って作動してしまえば、国または地球の滅亡も過言ではありません。核抑止論の考えは破綻しており、人類の存在をも脅かす悪魔の兵器、核兵器はこの世界に存在してはいけないです。平和な世界を創るためにには核兵器の廃絶しかありません。

現在、被爆者の高齢化が問題となっており、平均年齢は 86 歳を超えるました。私たちは被爆者の生の声を聞くことができる最後の世代だと言われています。いつか必ず、被爆者がいなくなってしまう日は来てしまします。もしも被爆者数の減少によって、核兵器の恐ろしさを伝え、核抑止論を否定し、核兵器廃絶を訴える声が減っていくと、今まで被爆者が形成してきた核のタブーが薄まり、再び核兵器が使用される危険性が高まります。そのようなことを絶対に防ぐために、被爆地広島で生まれ育ち、



◆ 石飛空(広島なぎさ高校 2年)

80 年前の 8 月 6 日、たった一発の原子爆弾によって、広島の街は一瞬で地獄のような姿に変わりました。家や学校、草木、人々の生活が奪われ、街中には泣き叫ぶ子どもたちと、無数の遺体があふれました。熱線と熱風によって焼き尽くされた広島は、「75 年間は草木も生えない」と言われるほどの荒れ果てた土地となりました。

しかし皆さん、周りを見渡してみてください。地獄のような街になってしまったこの広島には、今では草木が風に揺れ、人々の笑い声や生活の音があふれています。この“当たり前のように思える日々”は、決して当たり前ではありません。多くの人の努力と祈りによって築かれたものです。私は父のピースサイクリングツアーに参加し、そのことを実感しました。

広島にはたくさんの慰霊碑があり、「もう二度と悲劇を繰り返さない」という願いが込められています。今日は特に心を打たれた「広島平和都市記念碑」の話をします。この慰霊碑が建てられた当時、今では世界遺産にもなっている原爆ドームは取り壊されるかもしれませんでした。「あの地獄のような光景を思い出してつらい」という声が多くあったからです。しかし記念碑を設計した建築家・丹下健三さんは、「原爆ドームは残すべきだ」と強く主張しました。理由は、「人は忘れてしまう生き物だから」です。どんなにつらくても忘れてはいけない。悲劇を繰り返さないために、あの日の出来事を心に刻み、平和の尊さを伝え続ける必要がある。丹下さんはそう考え慰霊碑のアーチ

被爆者のいない次代を担う私たち若者が被爆者の被爆体験や思い、核兵器の非人道性を訴えていかなければいけません。現在、AI を活用して VR で被爆者と対話できるような装置の作成や、広島市による被爆体験伝承者や家族伝承者の募集など様々な伝承の形があります。私もまず多くの人に被爆の実相を知ってもらい、平和への关心を高めて核兵器反対の風潮、気運を高めるために SNS の発信や署名活動や県外研修の参加など積極的に行っていきます。また「微力だけど無力じゃない」という平和大使のスローガンを胸に継続的に根強く平和活動に取り組みます。

映像で戦地となり壊滅したウクライナやガザ地区の映像を見ますが、80 年前、原子爆弾によって焼け野原となつた広島の姿と重なります。当たり前にあった幸せな日常が理不尽に一瞬にして奪われていることは過去から何も変わっていません。同胞である地球上の人間の命や幸せな日々が奪われていることは他人ごとではありません。負の遺産である原爆ドームが語っているように、核兵器が使用され、歯止めが利かなくなる前に危機感を持ち、これまで被爆者が魂を込めて訴え続けた平和、核兵器廃絶を求め、一刻でも早く戦争や紛争の終結されるようにするのが私たちの使命です。未来の世界平和は、私たちの手にかかっていることを忘れず希望と勇気を持って歩み続けます。

チの中心から原爆ドームが見えるように設計しました。その後、丹下さんの思いに共感した多くの人々が、「嵐の中の母子像」や「平和の灯」など、いくつもの慰霊碑を原爆ドームの方向に向けて建てました。それらをつなぐ一直線は「平和の軸線」と呼ばれています。この軸線には、平和を願う人々の心が重なり合っています。

近年では、グリーンアリーナやゲートパークのピースプロムナードなども、この平和の軸線の一部として、平和の大切さを今の時代に伝えています。私は、平和を願う思いが形となり、世代を越えて受け継がれることを知りました。行動を起こし、受けついで下さった方々のおかげで今、私は平和な毎日を過ごせています。しかし、こうした方々の数は少なくなっています。だからこそ、これからは私たち若い世代が「語り継ぐ番」だと私は思います。世界では今も戦争や紛争が絶えません。もし私たち若い世代が「語り継ぐこと」をやめてしまえば、日本もいつかその渦に巻き込まれてしまうかもしれません。私たちの大切な人、そして“当たり前の毎日”を守るために、私たち自身が行動を起こすことが大切です。戦争体験者や被爆者の方々が命がけで伝えてくださつ平和への思いを、私たちが受け継ぎ、次の世代へつないでいく。このスピーチが、その小さな一步になる事を願っています。その思いがまた次の世代へと広がり、「平和の軸線」のように、たくさんの人の心をつないでいく信じています。私もその軸線の一部として、これからも平和を願う活動を続けていきます。

◆ 大久保翔 (広島国泰寺高校 2 年)

今、私たちがこの場所に存在し、様々な行動を当たり前のように行うことができているのは本当に当たり前のことでしょうか。この話題を考えたとき、多くの人は「当たり前ではない。」というでしょう。ですが、その後はどうでしょうか。一度当たり前ではないと考えても時間がたつといつの間にか、当たり前に戻っているのではないかでしょうか。この当たり前に戻るという現象は私たちが見る核兵器や戦争、平和のニュースでも同様のことが起こっていると思います。戦争に関するニュースを見た瞬間、私たちは被害に遭われた方のことを思い「戦争は人の命を奪う悲惨なもので起きてはいけないことだ。」と心から感じ戦争に対する反対の思いを巡らせます。しかし 2 日 1 日 1 時間というわずかな時間が過ぎると忘れてしまっているのではないかでしょうか。

さらにそれが年をまたぐとどうなるでしょうか。2022 年 2 月に始まったロシア・ウクライナ 戦争では戦争が起きた当時は多くの人がこのことに注目し、「戦争はやってはいけない。」という思いを多くの人が巡らせていました。しかし、当事者ではない私たちは慣れてしまい、「戦争はやってはいけない」という思いも薄れてきているのではないかでしょうか。



広島出身のアーティストのセーラーかんな子と申します。毎週水曜日と金曜日の 18 時～19 時に原爆ドーム前で行われる、パレスチナに連帯するスタンディングに参加しています。ガザでのジェノサイドが始まって 2 年以上が経ちました。形ばかりの「停戦」の後もイスラエルによる攻撃は続いており、ヨルダン川西岸においても入植者による暴力が激化しています。

私はこの広島で生まれ、戦争の記憶を身近に感じられる環境で育ちました。毎年の平和学習では戦争の悲惨さを学び、「二度と繰り返さない」と心に刻んできました。しかし、2023 年 10 月からパレスチナで起きていることを初めて知ったとき、自分には関係のない、他人事のように感じていたのです。

人間が人間として扱われず、簡単に命を奪っていく。それを、私自身を含む世界が許している。映画の中でしか見たことのないような酷く負傷した子ども、亡くなっていく子どもの写真が、SNS で大量に流れていく。それを見ながらも「戦争だから仕方ない」「止めようがない」と納得する理由を探して、目を逸らそうとしている自分がいることに気付きました。そんな私の価値観は、平和とはすでにかけ離れたところにあるのだと知ったのです。他の誰かを虐げられてもいい・殺されても仕方のない存在だとみなして切り捨てるとき、私の価値観はすでに戦争の中にあるのだと。

この忘れること、慣れることは、核兵器にも同様のことが言えます。今年、被爆者の方々の全国人数は十万人を切り、被爆体験などの、原爆に関する証言を被爆者の方々から直接お聞きする機会は年が過ぎる度に減ってきています。このことは私たちが今まで何回もお聞きすることができた、被爆体験を忘れてしまい、核兵器の恐ろしさを忘れ、さらに戦争の体験も忘れ去られ、遠い未来では、これらの体験は何も語られなくなる日が訪れてしまうのではないかでしょうか。

私たちが戦争の危険性・残虐性を忘れ、当事者のみが苦しんでしまう環境を作ってしまうこと、核兵器の恐ろしさを忘れ、核兵器について何も語られなくなってしまったとき、私たちは、また同じ過ちを繰り返してしまうかもしれません。過ちを繰り返さないために、これまで受け取ってきた被爆者の方のご経験を語り継ぐことが一つの使命でもあります。

しかし、この語り継ぐという行為さえ忘れ去られたとき、戦争や核兵器の使用という過ちが繰り返されるのは避けられないかもしれません。だからこそ私は忘れ去られないうちに、語り継がれていくうちに、現在様々な地域で起こっている戦争が大きな問題となっているうちに、核兵器の廃絶、そして、世界の平和を実現させるため行動をしていきたいと思います。

なぜ？ ガザのジェノサイドに抗議をするのか

セーラーかんな子 (アーティスト)

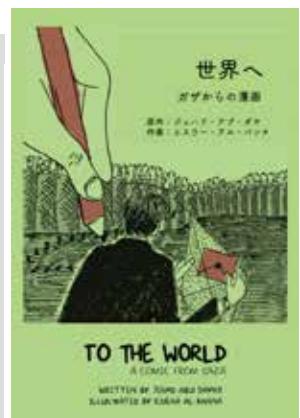
戦争は過去のものではなく、今も続いている。「二度と繰り返さない」と言いながら、日本は今起きているジェノサイドに加担しながら、自国も“戦争ができる国”になるための準備を進めています。私たちが納めている年金は、ガザでの虐殺に使われる武器を作っている軍需企業やイスラエルへの投資に使われています。また防衛省は、イスラエルの軍需企業から攻撃型ドローンを購入する予定です。

ジェノサイドの悲惨さを物語る写真や映像はネット上に溢れるほどあるのに。本当ならその一枚一枚が、停戦のきっかけになりうる衝撃さを持っているはずなのに。そうなっていないのは、私たちが目を逸らすための言い訳をたくさん探すからだと思います。暴力を平常化させようとする価値観に抗いましょう。日本政府は年金で虐殺に加担するな、ドローンを買うなと訴えましょう。パレスチナが解放されるまで、声を上げ続けましょう！

Instagram で知り合ったガザに住む大学生エスラーさんとジェハドさんが描いた漫画を翻訳出版したもの。ジェノサイドを生きる少女の視点から世界へのメッセージが込められた漫画で、ガザにいる人々をとても身近に感じることができます。売り上げはすべて作者に送金しています。

購入は

<https://gazagazagaza.base.shop/>





名前は人権 通称法制化は解決じゃない

恩地いづみ（夫婦同性別姓選択制の早期実現を求める会・広島）

皆さんにとって、なまえってなんでしょうか？「私のなまえ」ってなんでしょうか？

生まれてきた私たちは、名付けられて、私=私のなまえ、私の氏名、となって人生を歩き始めます。人生をともに歩んできたなまえが、結婚となるといきなり「氏を一つにしろ」。つまり、二人のうち一人は氏をなくして、全く別の氏に変えろ、ということになっているのが今の民法 750 条です。なまえが変わると不便だから、なくなった氏である旧姓を、そのまま使う、というのが旧姓の通称使用です。結婚改姓しているのは女性がほとんどなので、国は「女性活躍のため」と称して通称使用を認めてきました。高市早苗首相も、夫山本拓さんと別姓夫婦で、夫さんが改姓されて、今は「山本」さんが通称使用だそうです。

旧姓の通称で生活するってどういうことでしょうか。通称は本名ではありません。銀行口座や保険証、各種契約などでは戸籍上の氏名が使われます。パスポートも IC チップに書かれるのは戸籍の氏名です。

仕事や日常使っているのは通称名で、日常使っていない戸籍の氏名の口座でお給料を受け取り、戸籍名の保険証で病院を受診し、選挙の投票もする。

パスポートは旧姓を併記しても IC チップには戸籍名だけ書き込まれます。だからパスポートを用いる航空券やホテルの予約は戸籍名です。通称で働いていれば、仕事で渡航するときに社会的に認知されていない戸籍名で飛行機に乗りホテルに宿泊することになります。海外で通称は理解されません。併記で（ ）に挟まれたものは氏名とは認められず、「2つの氏名を使い分けるのは犯罪的行為です」といわれたりもします。そのように使えないところがあり、犯罪的行為とまで言われ、また「それが私の氏名です」というために書類や手続きがいるのが通称です。

今回、自民と維新の連立合意文書では通称法制化方針があげられています。法制化したら通称だけで生活できるか？といえば、できません、というのが答えのようです。法制化しても、戸籍名と通称名二つが存在することになる。法務省が「ダブルネームで混乱を招く恐れがある」と言ってもいます。通称を単記で使えるようにするには何千もといわれる法令政令を改正することが必要になります（改正対象法令は 650 超、政省令は 2700 超ともいわれており、そのうち実際に改正が必要なものがどれだけあるかは明らかではありません。ちなみに選択的夫婦別姓だと 4 法令）。二つの名前を紐付けるためには官民共にシステム改修に莫大なコストがかかります。

このように、通称使用拡大や通称法制化では問題を解決しません。改姓の不便は軽減はしても解消しないし、何よりも不本意な改姓は無くならない。

憲法 13 条には「すべて国民は、個人として尊重される。」とあります。生まれて名付けられたなまえ、氏名で、個人として尊重されるのですよね。名付けられるのは氏名です。下の名前だけがその人のもの、というのは詭弁です。氏名丸ごとがその人個人です。そしてなまえは人権です。不本意な改姓をなくしたい。

どちらかが改姓して夫婦同氏にするか、二人ともが改姓しないでそれぞれの氏名のままでいるかを選んで婚姻届を出せるという同姓別姓選択制と、通称使用を使いやすくする、というのはニーズが異なるのです。通称使用法制化は選択的夫婦別姓の代わりにはなりません。

結婚改姓の強制を無くすこと、それは日本人権状況を一步前進させます。戦闘がないことだけが平和なのではありません。人権が守られていることなくして平和はありません。あなたが、そして次の世代が不本意な結婚改姓に悩まなくていいように、結婚改姓をするかしないか選択できる制度のある社会の実現に向けて、通称使用拡大や通称法制化は解決策ではないこと、選択的夫婦別姓が必要であることを、と一緒に声をあげてください、よろしくお願いします。

<11.3 スピーチの後、2025 年 12 月下旬現在>

高市首相が主張する通称法制化を連立合意文書に書き込んだ自維政権は、法制審答申をほぼ継承する 2 案を含む野党 3 案が継続審議になっているにもかかわらず通称法制化を進める方針を出した。第 6 次男女共同参画基本計画策定に当たっても政権の意向に沿った通称法制化の文言が突然入れられ文書が確定できない状況になっている。

国会では（12 月 16 日参議院法務委員会、12 月 18 日衆議院法務委員会 閉会中審査）、法制審議論において早々と否定された通称使用法制化を答申を踏み越えて進めようとするこの問題点指摘にも、通称使用法制化で得られる通称の使用拡大範囲の見通しや通称法制化によるリスク、コストの確認にも、検討中と明言を避けた。

通称法制化では「不本意な改姓は避けられず、人権が尊重されない制度がもっぱら女性に負担を強いている」という指摘に、平口法務大臣は「国民の間に様々な意見がある、必要な検討を進めていきたい」と壊れレコードのような答弁をした。官邸幹部の核保有主張発言については「国はの非核三原則はきちんと守る。日本の平和主義をはみ出してはいけないと毅然とした態度を示した。2024 年のアンケートでは、選択的夫婦別姓「賛成」と回答している平口大臣には、「1996 年の法制審答申をきちんと守る。人権尊重にむけて必要な検討を進めていきたい」ときっちり言つていただきたい。



竜爪さんの手紙に寄せて

西浦紘子（第九条の会ヒロシマ世話人）

今夏の新聞意見広告を出した後、竜爪（りゅうそう）さんという方から手紙をいただいた。ある時から“音の無い世界”に生きてこられた方で障害者福祉運動の第一線において活躍なさっていたようである。この度の紙面を見て、「虫メガネを用いなければ読めないような人名一つひとつが訴えている」、「ドーム写真が何万語の言葉を用いての訴えにも勝る」とお褒めいただいた。毎年「名前が小さくて…」とか紙面内容に様々なご意見をいただき、どうしたものか、どのような紙面を作ろうかと世話人一同頭をひねっているので本当に嬉しく思った。

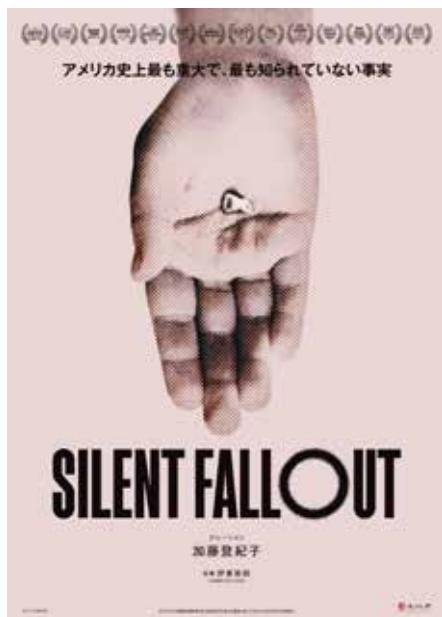
この方のお父様は「第五福竜丸」の無線長だった久保山愛吉さんの葬儀に参列されたことがあるという。そのことから「第五福竜丸」を第三の原爆被害と捉え（第一、第二を広島、長崎と考え）、他の多くの漁船、地域の島民などが被爆しているはずなのにほとんど知られていないと述べられていた。

それを読み、ある映画の取り組みを思い出した。日本人監督の伊東英朗さんの「SILENT FALLOUT」である。ご覧になった方も多いことだろう。この作品はアメリカ本土の核被ばくを明らかにすることによって核問題を訴え核を失くそうとする取り組みである。映画は訴える。日本は世界で唯一の被爆国ではなかった。アメリカ政府によって大陸に落とされた101個の原子爆弾、核実験によってアメリカ大陸は強く放射能汚染していた。しかし、アメリカ政府は、そのことを国民に隠していた。ネバダ州やユタ

州では実際に多くの人々が原因不明の病気になり亡くなっていた。後に**downwinder**（風下住人）と呼ばれる人々である。また子どもに牛乳は飲ませないほうがいいという噂も広まつた。

それを調べる中心となったのは、ルイーズ・ライスという医師であり母親であった。放射能汚染はユニークな方法で証明された。それは、子どもたちの乳歯を集め子どもの放射能汚染を証明したのだった。そして、その事実はケネディ大統領をも動かした。ケネディ大統領は大気圏内の核実験を中止した。その結果、アメリカ国内での核実験（例えば1951年ネバダ州で行われていた）は行われなくなり、代わりに1946年太平洋のマーシャル群島で始められていた核実験がビキニ環礁ではあるかに大きな核実験として行われるようになった。これにより第五福竜丸も被爆したのである。現在、伊東監督はアメリカでの映画上映を通し、「米大陸が放射能で汚染したこと、その事実を政府が隠したこと」を知らせ、声を上げるよう促す活動を行っている。目標はアメリカ議会を動かし、世界の放射能問題を大きく変えることであるという。核問題に取り組む方法は様々あるがこのようにアメリカの人々の声や事実を集めて核廃絶にアプローチするという伊東監督のやり方はユニークである。

竜爪さんは「世界はいま、再度“戦前！”に戻ろうとしている」と述べておられる。私たち第九条の会ヒロシマはこのご意見をしっかりと受け止め活動していかなければならないと強く思われた。



日本人監督が、アメリカ国民に突きつける アメリカ大陸全土の放射能汚染

日本は世界で唯一の被爆国ではなかった。アメリカ政府によって大陸に落とされた101個の原子爆弾、核実験によってアメリカ大陸は強く放射能汚染。しかし、アメリカ政府は、そのことを国民に隠した。「このままでは我が子が放射能で殺される!」――

立ち上ったのは、母親たちだった。中心となったのは、医師であり母親であるルイーズ・ライス。放射能汚染はユニークな方法で証明された。それは、子どもたちの乳歯、母親たちは子どもの放射能汚染を証明。そして、その事実はケネディ大統領をも動かした。

現在、監督はアメリカでの映画上映を通して、米大陸が放射能で汚染したこと、その事実を政府が隠したことなどを知らせ、声を上げるよう促す活動を行っている。

目標はアメリカ議会を動かし、世界の放射能問題を大きく変えること。（2023年完成、76分）



SILENT FALLOUT | 梶原京子監督・米国版

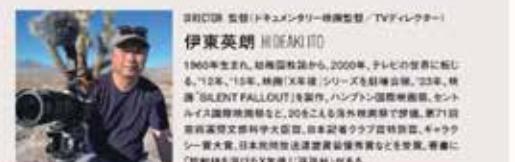
パンフレット: 原爆被爆地図 (アメリカ) | 合成上級
セントラルスイーツ被爆地図 (アメリカ) | 合成上級
ボストン・シティ・ビルディング被爆地図 (アメリカ) | 合成上級
第11回 ARFF バルセロナ被爆地図 (スペイン) | 合成上級
南カリフォルニア被爆地図 (アメリカ) | 合成上級
スウェーデン国際被爆地図 (スウェーデン) | Outstanding Achievement
ARFF 第3回アラントン被爆地図 (スペイン) | 合成上級 ARFF グローバル
パリ国際被爆地図 (フランス) | 合成
マーケティング被爆地図 (ギリシャ) | 合成上級
トロントキュンタリー・高齢者被爆地図 (カナダ) | Best Story
ニコローワシティ被爆地図 (アメリカ) | 合成上級

シアトル映画祭被爆地図 (アメリカ) | セレクション
ローリー・ブリスミヤ被爆地図 (イタリア) | Monthly Pick
ハイアーモンド被爆地図 (アメリカ) | セレクション
オースティン映画祭被爆地図 (アメリカ) | セレクション
HDPF-パートナーフィルム被爆地図 (イタリア) | フィルマリスト
レンド・ルービー・アーヴィング (フランス) | 史詩映画
マインフィールド被爆地図 - アーヴィング (アメリカ) | ダイアモンド賞
シリリウム・ダビュク国際被爆地図 (オランダ) | 2020年オフィシャルセレクション
アリゾナ映画祭被爆地図 (アメリカ) | フィルムセレクション
ハーレム映画祭被爆地図 (アメリカ) | オフィシャルセレクション
BLSTOFF (アメリカ) | オフィシャルセレクション
ダブリン被爆地図 - セレクション
WNLoudoun Daily Festival | ベスト・フェアチャーフィルム
Houston Asian American & Pacific Islander Film Festival | オフィシャルセレクション



ナショナル・ナレーター
加藤登紀子 TOKIKO KATO
(日本語版)

アレック・ボールドウイン
(英語版)



脚本: 伊東英郎 EIKOITO

1960年生まれ。幼稚園教諭から、2000年、テレビの世界に転じる。「12・15年、林衡太監督、シリーズを制作。23年、林衡太監督「SILENT FALLOUT」を製作。ハーブ・ジン国際被爆地図、セントラルスイーツ被爆地図など、20余作品を制作。2021年、日本高齢者被爆地図を監修。日本高齢者被爆地図を監修。著書に「放射能をもぎたたX年後」(講談社)がある。

活動報告 (第九条の会ヒロシマほか 関連団体、実行委員会含む)

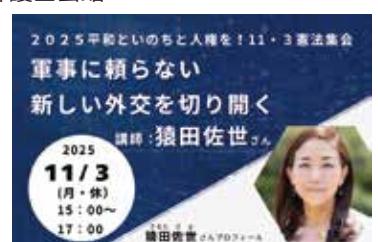
9月	10日 (水)	第九条の会ヒロシマ会報 126号発送 広島国際会議場3F研修室
	17日 (水)	世界核被害者フォーラムスタッフ会議 アステールプラザ 14時～
	19日 (金)	上関原発止めよう！広島ネットワーク中電本社前行動 & 要請行動
		安保法強行採決から10年 9.19行動 18時～ 広島本通り電停前
	20日 (土)	福島原発事故・福島原発刑事裁判報告の集い 14時 広島弁護士会館
		『教育勅語と戦争責任を考える』 中村平さん 広島弁護士会館
	22日 (月)	世界核被害者フォーラムスタッフ会議 14時～ 共同センター
	24日 (水)	日東電工争議・街宣行動（韓国民衆に連帯する会）稻荷町電停前歩道
		世界核被害者フォーラムスタッフ会議 14～18時
	26日 (金)	ピースリンク広島・呉・岩国 17時半～呉駅前街宣 & 例会
	28日 (日)	世界核被害者フォーラムスタッフ会議 9時半～12時 国際会議場研修室
	30日 (火)	阿波根昌鴻写真展（全国巡回展）9月30日～10月5日 広島県立美術館
10月	3日 (金)	ヒロシマ総がかり「3の日」行動 17時半～広島本通り電停前
		阿波根昌鴻ギャラリートーク & 4日 (土) 13時半～シンポジウム
	4日～13日	「STOP ISRAEL ACTION 2025」 デモ
	5～6日 (土日)	広島・長崎被爆80周年「核のない未来を！世界核被害者フォーラム」
	7日 (火)	「STOP ISRAEL ACTION 2025」 キャンドルアクション 18:00 着火、スピーチ・アピールなど
	13日 (月、休)	「STOP ISRAEL ACTION 2025」 18:00～ビジル
	18日 (土)	和解を導いた力 Part5—被爆者・孟昭恩さんの生涯をふりかえる集会 広島弁護士会館
	19日 (日)	安野現地慰靈祭 安野発電所「安野中国人受難之碑」前
		沖西ネット集会（祝園わり） (18日 京都会議)
		外国人住民基本法制定を求めるリ-集会 金迅野さん 日本バプテスト教会
		共生フォーラムセミナー「本名で教壇に立つ」広島市留学生会館
	20日 (月)	平和記念公園とパールハーバーとの姉妹公園協定撤回を求める署名記者会見
	23日 (木)	第九条の会ヒロシマ世話人会 14時～広島国際会議場3F研修室
		上関原発止めよう！広島ネットワーク中電前行動 12時～13時
	24日 (金)	ピースリンク広島・呉・岩国 17時半～呉駅前街宣（&例会）
	29日 (水)	平和記念公園とパールハーバーとの姉妹公園協定撤回を求める署名活動
	31日 (金)	VFP（ペテランズ・フォー・ビース）日本ツアー広島集会（ピースリンク）広島市民交流プラザ
	1日 (土)	中国人被爆者の碑を考える会「台湾で生まれて広島へ」日下美香さん
		「パレスチナの状況から考える日本（広島）の平和」廿日市市民活動センター
	3日 (月・休)	日本国憲法公布78年 原爆ドームを平和のバナーで囲もう原爆ドーム前
		ヒロシマ総がかり憲法集会 猿田佐世さん（新外交イニシアティブ）広島弁護士会館
	9日 (日)	ドキュメンタリー映画 金順岳の人生『やさしく』上映とトーク 広島市民交流プラザ
	15日 (土)	11.15「反原発デー山口県民集会」講師：越智秀二さん（地質学）& デモ行進
	19日 (水)	第九条の会ヒロシマ世話人会 13時半～広島国際会議場3F研修室
	21日 (金)	核兵器禁止条約への署名・批准を求める国会前集会に呼応した原爆ドーム前集会
	22日 (土)	戦後日本の出入国管理制度はどう作られたのか 李英美講演 広島市民交流プラザF5A
	23日 (日)	ドキュメンタリー映画「ウェイズ・オブ・ウイング」上映 広島市民交流プラザ
		シンポジウム「報道と死刑」竹田昌弘さん 金平茂紀さん 太田昌国さん 広島弁護士会
	25日 (月)	女性に対する暴力撤廃国際デー キャンドルアクション 原爆ドーム東側
	29日 (土)	核施設と軍事施設がひしめきあう青森県下北半島（上関ネット）広島弁護士会館
		平和記念公園とパールハーバーとの姉妹公園協定撤回を求める署名活動
12月	3日 (水)	ヒロシマ総がかり「3の日」行動 17時半～広島本通り電停前
		12.20呉集会実行委員会 19時～Zoom
	6日 (土)	週刊金曜日読書会—雨宮処凜さん広島講演会 広島弁護士会館
	7日 (日)	「差別のない人権尊重条例」制定を求めるネットワーク アルテイシアさん講演会
	8日 (月)	不戦の日のつどい：金鎮湖さん講演（広島県朝鮮人被爆者協議会会長）広島弁護士会館
	10日 (月)	12.20呉集会実行委員会 19時～Zoom
	12日 (水)	ピースリンク広島・呉・岩国 17時半～呉駅前街宣（&例会）
	13日 (土)	JCJ不戦の集い「今、目の前で進む対中国戦争の現実」石井暁さん 広島弁護士会館
	14日 (日)	韓統連広島セミナー「李在明政権の誕生と日本の右傾化」広島市民交流プラザ
	17日 (水)	第九条の会ヒロシマ世話人会 13時半～広島国際会議場3F研修室
	18日 (木)	12.20呉集会実行委員会 19時～Zoom
	20日 (土)	呉を再び「軍港」にするって、ほんとにいいの—呉の未来を考える—ピースウォーク
	25日 (木)	映画「アレン・ネルソン9条を抱きしめて」視聴 第九条の会ヒロシマ
	27日 (土)	12.20呉集会実行委員会 19時～Zoom
	29日 (月)	平和記念公園とパールハーバーとの姉妹公園協定撤回を求める署名活動
2026年		
1月	2日 (金)	岩国基地の拡張・強化に反対する広島県住民の会新春宣伝 宮島口
	3日 (土・祝)	ヒロシマ女たちの新春街宣 13時～元安橋
	10日	新春討論会 高井弘之さん（沖西ネット愛媛）広島弁護士会館
	14日 (水)	第九条の会ヒロシマ会報127号発送 国際会議場 13時 世話人会 15時



「STOP ISRAEL ACTION 2025」



10.23 上関ネット中電への申し入れ



11.3 ヒロシマ総がかり憲法集会



女性に対する暴力撤廃キャンドルアクション



12.12 ピースリンク呉駅前街宣



ヒロシマ総がかり「3の日」行動



ヒロシマ女たちの会 新春街宣

お知らせ

◆岩国基地強化の先 沖縄の現状から考える

岩国基地の拡張・強化に反対する広島県住民の総会・記念講演会
1月17日（土）広島弁護士会館3Fホール
講演：13時30分 総会：16時～16時30分
講師：具志堅隆松さん 沖縄遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表
資料代：800円（学生・障がい者無料）
＊オンライン申込 stop.iwakunikichi@gmail.com 1月13日迄
主催：岩国基地の拡張・強化に反対する広島住民の会
連絡先：090-3373-5083（新田）

◆地方×ジェンダー「ZINE」発刊トークイベント in 福山！

- 1月25日（日）14:00～ 自由な本棚
(福山市今町2-10本通り商店街内)
- 参加費：1,000円（ZINE代金込）※：購入済みの方は500円
- ご予約 フォームよりお申し込みください
- QRコード（ファイル貼付しました）
- 主催：ジェンダーを考えるひろしま県民有志
- 連絡先：@genderhiroshima



◆第三次別姓訴訟

- 札幌地裁・第5回期日
1月23日（金）11時～ 札幌地方裁判所 805号法廷
期日報告会 札幌弁護士会会館5F配信あります。
- 東京地裁・第7回期日
3月18日（水）14時～ 東京地方裁判所 103号法廷
期日報告会 会場、配信あり 支える会webページから

◆第23回共生フォーラムセミナー

- 「多文化共生教育を考える—マイノリティを内面化するとは」
- 2月1日（日）14時30分～16時30分 正会員向け配信有
西区地域福祉センター3階大会議室
- 講師：高橋創さん（NPO法人共生フォーラムひろしま理事）
参加資料代：500円（正会員・学生無料）
主催：NPO法人共生フォーラムひろしま
後援：広島市・広島市教育委員会
連絡先：070-3771-9235 Email：kyosei.fh@gmail.com

◆パネル展発表

「日本軍性奴隸制問題と現代の性暴力を知ろう！」

- 1月31日（土）12時～2月21日（土）13時
広島市男女共同参画推進センター ゆいぼーと1階ロビー
主催：広島市男女共同参画推進センター ゆいぼーと加入団体
日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク
連絡先：090-3632-1410（土井）



◆フラワーデモ in ひろしま

- 3月8日（日）17:30～ 広島本通り電停前
主催：ヒロシマ女たちの会
連絡先：090-4692-6667（富樫）070-5052-6580（藤井）

事務局から

2025年度の会費・カンパをお願いしま～す！

- 2025年、ご協力ご支援くださった皆さんに感謝！ 新しい年も、日鉄呉跡地をはじめ大軍拡・核抑止・原発回帰、広島県・市の悪政に抗い、命・人権を守る活動を続けていきます。引き続き、会へのご支援をよろしくお願いいたします。
- ・タックシールに皆さまの会費・賛同金など入金状況を記載しています。間違いがあれば、遠慮なくご連絡くださいますように。
- ・8.6新聞意見広告掲載で会費まで食い込みました。会費25がまだの方、また再カンパなど、ご支援を、よろしくお願ひ致します。

▶広島の市民運動 月1回の街宣に声援を！

▶広島・パールハーバーの協定撤回を求める署名活動

日 時：毎月29日11時～12時（時間等辺りまでご連絡を）
場 所：元安橋
主 催：パールハーバーの協定撤回を求める会
連絡先：080-5622-1256 n11mdm7a8d@hi3.enjoy.ne.jp（辺り）

松井広島市政へ

署名にご協力ください！

広島・パールハーバーの協定撤回を求める署名

<http://knethiroshima.fc2.net/blog-entry-153.html>

▶日本軍性奴隸制問題解決のための水曜街頭行動

日時：2/4 3/4 4/1 原則第一水曜日12時～13時
広島市本通り電停前（青山側）
内容：リレートーク、チラシ配布、『岩のように』歌とダンス
主催：日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク
連絡先：090-3632-1410（土井）

▶上関原発を止めよう！広島ネットワーク中電前行動

1月21日、2月19日、3月19日（水）12時～13時
場 所：中国電力本社前
主 催：上関原発止めよう！広島ネットワーク
連絡先：(090-6835-8391)（渡田）

▶「日東電工は韓国労働者への人権侵害をやめよ」

日時：1月26日（月） 広島本通り 15時～16時
主 催：韓国民衆に連帯する会
連絡先：090-2291-3406（実国）090-4740-4608（久野）

▶ピースリンク広島・呉・岩国 吳駅前街頭宣伝

1月15日（木） 吳駅前（ゆめタウンへの歩道橋上）
主催：ピースリンク広島・呉・岩国
連絡先：090-9736-8895（西岡）



▶ミャンマーをわすれないで「1の日行動」

2月1日 第57回「1の日行動」 原爆ドーム前 15時～
クーデターから5年 犠牲者追悼の祈り
3月1日 第58回 本通り青山前 街頭アピール、募金

◆2.11「建国記念の日」を問う広島集会

2月11日（水）14:00～16:00 広島カトリック会館多目的ホール
世界平和記念聖堂横（広島市中区幟町4-42）

講演：「信教の自由を生きる～戦争準備に抗して」

講師：小河義伸さん（日本バプテスト連盟靖國神社問題委員会協力委員
資料代：500円 平和を実現するキリスト者ネット事務局）

共催：日本基督教団西中国教区広島西分区 090-7540-0332 大月
カトリック広島司教区正義と平和推進デスク082-221-6613 神垣
広島市キリスト教会連盟 082-241-3695 立野

・広島県原水禁元事務局長で理論的支柱だった横原由紀夫さんが亡くなりました。当会でも世話をとなってください勉強になりましたが、その理論と経験で市民運動でも随分、助けていただきました。街頭での堂々としたアピールの姿を思い出します。

・1月4日夕方「ベネズエラに爆弾を落とすな！」緊急アクションが叫びられた。ベネズエラ船舶への攻撃も驚きだが、他の首領を爆撃し大統領夫妻を拉致・拘束するとは！軍事（大国）による世界支配に強く反対の声を上げていきましょう。（土）

・8.6意見広告2026、今年はどんなテーマにするといいかなあと話し合っていますが「人権」を考えるとき課題が多すぎます。皆さん今、「気になっていることは？」ぜひお寄せください。